

文部科学省拠点システム構築事業
途上国における家庭科教育の推進

日本女子大学 家政学部
アジア家庭科教育協力プロジェクト

家庭科ハンドブック

家庭科ハンドブックの位置づけ

- 途上国における家庭科教育の推進をめざして

日本の家庭科教育経験の集約化(データベース)
途上国における家庭科教育の現状調査、ヒアリング
海外調査、アンケート調査
フォーラムの開催 など

↓

A. 日本の家庭科教育・教育協力の歴史と現状
B. 家庭科教育モデル冊子

途上国教育関係者・途上国派遣員が行う活動に家政学からの教育モデルの提案

途上国教育協力 家庭科ハンドブック

途上国教育協力
家庭科ハンドブック

2006年3月
日本女子大学
アジア家庭科教育協力プロジェクト

English
作成中

目次構成

家庭科教育の全体構成
年間計画例(時間)

I 家族と家庭生活
II 食生活
III 衣生活
IV 住生活
V 消費生活と資源・環境

<目次>

目次

家庭科教育の全体構成

1 目的と趣旨

2 年間の計画

地域別家庭科教育モデル

1 家族と家庭生活

1 生活の総論と実践

(1) 家族の役割と役割分担

(2) 家族のコミュニケーション

(3) 家族の生活リズムと生活習慣

(4) 家族の生活環境と生活習慣

(5) 家族の生活と地域社会

(6) 家族の生活と文化

(7) 家族の生活と環境

(8) 家族の生活と健康

(9) 家族の生活と安全

(10) 家族の生活と福祉

2 食生活

(1) 食生活の役割と役割分担

(2) 食生活のコミュニケーション

(3) 食生活の生活リズムと生活習慣

(4) 食生活の生活環境と生活習慣

(5) 食生活の生活と地域社会

(6) 食生活の生活と文化

(7) 食生活の生活と環境

(8) 食生活の生活と健康

(9) 食生活の生活と安全

(10) 食生活の生活と福祉

3 衣生活

(1) 衣生活の役割と役割分担

(2) 衣生活のコミュニケーション

(3) 衣生活の生活リズムと生活習慣

(4) 衣生活の生活環境と生活習慣

(5) 衣生活の生活と地域社会

(6) 衣生活の生活と文化

(7) 衣生活の生活と環境

(8) 衣生活の生活と健康

(9) 衣生活の生活と安全

(10) 衣生活の生活と福祉

4 住生活

(1) 住生活の役割と役割分担

(2) 住生活のコミュニケーション

(3) 住生活の生活リズムと生活習慣

(4) 住生活の生活環境と生活習慣

(5) 住生活の生活と地域社会

(6) 住生活の生活と文化

(7) 住生活の生活と環境

(8) 住生活の生活と健康

(9) 住生活の生活と安全

(10) 住生活の生活と福祉

5 消費生活と資源・環境

(1) 消費生活と資源・環境の役割と役割分担

(2) 消費生活と資源・環境のコミュニケーション

(3) 消費生活と資源・環境の生活リズムと生活習慣

(4) 消費生活と資源・環境の生活環境と生活習慣

(5) 消費生活と資源・環境の生活と地域社会

(6) 消費生活と資源・環境の生活と文化

(7) 消費生活と資源・環境の生活と環境

(8) 消費生活と資源・環境の生活と健康

(9) 消費生活と資源・環境の生活と安全

(10) 消費生活と資源・環境の生活と福祉

1. 家庭科ハンドブックの目的

— 家政学と家庭科

- 生活を一元的にとらえるのが家政学(家庭科)
- 生活という総合的な分野であるために学際的内容
- その背景として、サイエンスと文化に裏打ちされた教育・学問

2. 家庭科ハンドブックの目的—ねらい

- 「伝統や文化を大切にしながら、その国の独自の姿で進んでいく」ことを支援する
- 家庭科を通じた「地域への働きかけ」も想定子どもや地域をきっかけにして変わっていくように
- 特定対象国はないが、調査を行ったベトナム社会にまで適合する内容
- 大切な基本をこの冊子に盛り込む

2. 家庭科ハンドブックの目的—想定

- ▶ 日本のデータを示し、日本の現状、教育理念や学問的な裏付けを示す
- ▶ 各国の事情に合わせてアレンジ・付加することを想定
- ▶ 初等教育・中等教育を主対象として書き分ける
- ▶ 応用教育(職業教育)まで触れる

3. 日本の家庭科教育との整合性

(B) 日本の家庭科教育 (参考)

学習指導要領	初等教育(小学校)		中等教育(中学校)		高等教育(大学)	
	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領
	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育
	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育	高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育 高等学校の家庭科教育

← 教育内容の深化 ← 課題発見から解決へ

4. ハンドブックのページ構成

国際的理念

keywords

大項目・中項目: 理念、学習の流れ 小項目: 学習活動例、解説

各領域の内容と特徴

I 家族と家庭生活

I 家族と家庭生活

1. 家族の成長と変遷

2. 家族の役割と責任

3. 家族の絆と支え

4. 家族の未来と希望

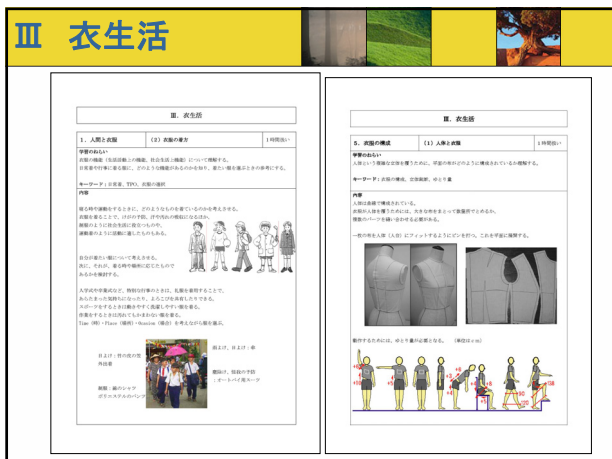
I 家族と家庭生活

- 自立、環境、福祉という3つの柱から構成
- 写真や絵を通しての学習を想定
- 授業の流れをイメージした内容
- 全世界共通のルールに基づく
- 1991年につくられた「高齢者のための国連原則」(高齢者の5つの権利: 自立・参加・ケア・自己実現・尊厳)
- 学習の流れを1時間で考えて作っているため、大きな活動を2~4つくらいしか入れていない
- 児童: 小学校までという定義で用語を使用している
- 生徒: 中学校以上



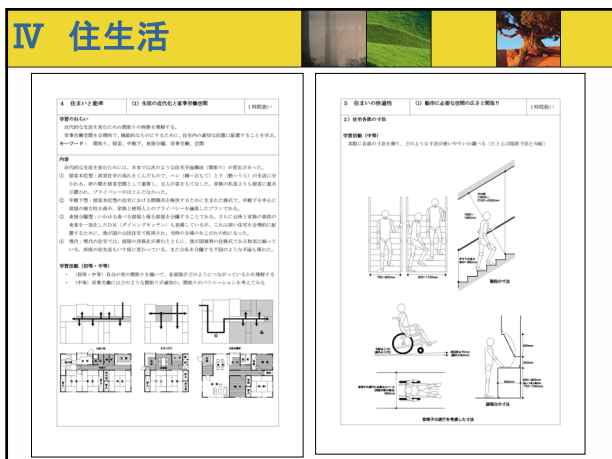
II 食生活

- 日常の食事に関心をもって、調和のよい食事を考えていくための基礎知識を記述
- さらに食品の性質や栄養素についての学習
- 料理法、食品とも、それぞれ独自の食文化がある
- できるだけ各国共通の事例を挙げている
- 料理ではなく、調理（科学的視点が基礎になっている）
- 料理ひとつひとつを考えるのではなく、学問体系にのっとったかたちで、やさしく解説した内容



III 衣生活

- 単なるファッションではなく、健康や安全に配慮した「衣服」を学ぶ
- 地域、気候風土と衣服の関係を、日本の例をとってみているが、各国で置き直してほしい
- 共通するものとして、素材の性能や取り扱い
- 製作は、各国の状況に合わせて置き直すことを想定
- 日本の小学校・中学校の例をあげたので、応用してほしい
- 衣生活が自立して行われるように
- 事例には、ミシンがなくてもできるような、たとえば手縫いでできるようなシンプルな物を取り上げた



IV 住生活

- アジアではあまり教育が行われていない分野
- 各国の事情により、住まいの規模は大きく異なる
- インテリアなど内部のみでなく、全体像を記述
- WHO「健康住居環境の基本条件」に沿った構成
 - 安全(safety)
 - 健康(health)
 - 能率(efficiency)
 - 快適性(comfort)
- 日本の事例や世界各地の住まいをビジュアルに見せ、自分の国と比較してほしい
- 自分たちの家ばかりでなく、初等教育から中等教育に進むにつれ、地域施設や環境などまで考える
- 住居に興味をもち、中等教育では専門知識をつけるように

V 消費生活と資源・環境

消費生活と資源・環境	
1. 拡大の生産と消費 (1) 拡大の生産と消費の循環 (2) 拡大の消費と資源	1 発展国 2 発展国 3 発展国
内容 (1) 生活と資源・環境の関わり (2) 生活と消費の循環 (3) 生活と資源・環境の循環	
(2) 生活と消費の循環 生活と消費の循環は、拡大の生産と消費の循環と関連しています。生活と消費の循環は、拡大の生産と消費の循環と関連しています。生活と消費の循環は、拡大の生産と消費の循環と関連しています。	

V 消費生活と資源・環境

- 生活を支えている物やサービス、お金の流れを理解してもらおう
- その国によって、経済状態や流通状態が異なるため、その国でどのような問題がおきているか、生活問題は何か、をさぐることが出発点
- 身近な問題から社会に視野を広げてほしい
- 国際的な共通認識として
消費者の8つの権利と5つの責任を基礎としている
- 環境分野は「消費生活からみた環境保全」まで

まとめ—ハンドブックの共通理念

- 国際的なルールを下敷きに
- 日本の実例や、知識を紹介する
- 派遣者・当該国が可能な限りアレンジ

まとめ—家庭科教育の目標

- 学校教育が基本
- 同時に保護者の教育、母親を教育するなどの成人教育が重要
- 時には親を呼んで教育する機会を作り、親を巻き込んだ教育となることが望ましい
- 被服であれば技術を教えて収入の道を開く
- 家庭科の教員を派遣し、保護者まで含めて教育していくことが重要
- 地域と学ぶ場の接点をとること

まとめ—家政学のめざすもの

- 生活をトータルするのが家庭科のポイント
- 生活という総合的なものを学習する
- 学際的、しかしその背景が学術的であること
- サイエンスと文化に裏打ちされた教育
- その国の伝統や文化を大切にしながら、その国の独自の姿で進んでいく
- 日本の現状をプラス・マイナス面から理解し、それを越えて前進することができるように

まとめ—女性のエンパワーメント

- 家庭科教育には女子教育、エンパワーメントとしても意味がある
- なぜ女子に教育が必要か、自分や家族の生活をきちんとできるということが基本であり、男女とも平等に学ぶ必要がある
- 人権教育に基づき、男女共同参画社会をめざして
- すぐ役に立つ教育ばかりでなく、次世代につなげていく文化を育てていく

まとめ－女性のエンパワーメント

- 科学や技術が急速に発展していく中で、人間が人間らしく生きる知識をつけ、人間のディベロップメントを図る
- ごみ問題のように国を越えた被害が出ていることなども理解
- 日本が経験するよりもっとスピーディな変化が起ころう国々で、劇的な変化に対応できる深い知識と判断力を身につけることが重要

アフガニスタン女性教育支援

「生活のスキル」としての家庭科教育 2006年1月24日

「家庭科教科指導の実際－家庭科テキストと授業展開」
実習「生活のスキル」関連授業の事例

家庭科ハンドブックの一部を
使用し、研修を実施

ダリ語に翻訳

2005年度アフガニスタンの発展途上国教育者の研修

2006年1月24日
アフガニスタン、カブール

研修の様子が写った写真が複数掲載されている。

今後の課題

- 現地の協力校との交流を深め、途上国で家庭科教育ハンドブックの使用をお願いする
- 派遣教員の方々にご意見を伺う
- 現地の意見をもとに内容を検討し、改訂をする
- 内容の一部を現地語に翻訳する